



みんなの力でみんなの幸せを

s a w a r a b i

さわらび

4

April
2007
vol.408

医学
講話

「認知症のケアでは嘘をついてはいけないの？」

福祉村病院 副院長 伊 莉 弘 之

特集

障害のある子を持つご家族の思い

—不安のない未来をめざして



「認知症のケアでは、嘘をついてはいけないの?」

福祉村病院 副院長 伊 莉 弘 之

昨今テレビなどのメディアで認知症についての啓蒙番組がよく放送されています。それらの報道の中には素晴らしいものもありますが、実際に認知症のケアに関わっている方からは、本当ですかというような疑問の声があがるような報道まであります。今回はその中でもバリデーシヨンセラピーに関する問題を考えてみたいと思います。

①バリデーシヨンセラピーとは?

バリデーシヨンセラピーは一九八〇年頃アメリカのナオミフェイル氏が始めたといわれる認知症に対する非薬物療法のひとつです。商業ベースに乗ったために学会発表や研究論文は多くありません。バリデーシヨンの基本は、認知症の方がどのように感じ、何をストレスに思い、どのような心理状態であるかを感じと

り、理解して受容して、本人のストレスや不安や不快を取り除いていくように対応する、接していくという事です。このような対応や接し方をする事で、認知症に伴ってみられる幻覚や妄想、暴言や暴力などの行動障害を軽減する、みられないようにするという治療法です。認知症の方に対して、良い接し方、良い対応の仕方をする事が治療となるわけです。

②バリデーシヨンでは嘘は禁止!

最近あるテレビ報道で「私は認知症の方に嘘をついてしまった。嘘をついてはいけないのに、どうしよう。これから、どのようにしたら嘘をつかないで済むかを検討して欲しい。」という番組をしていたようです。長谷川先生がテレビで「嘘はいけません。」と言われていました。バ

リデーシヨンセラピーでは、その基本姿勢のひとつに、「真実に基づいた言葉を使う。嘘はいけない。」という項目があります。現在メディアの多くはバリデーシヨンセラピーを全面的に信頼し実施するのが正しい認知症のケアであるかのごとく報道しているわけです。

③実際の認知症ケアの現場では:

アルツハイマー型認知症の方に對して怒ったり叱ったりしているケアは論外として、関心をそらすとか、タイミングをずらすという対応をする時に、状況に応じて本人が安心するような言葉かけをしたりします。その時には嘘やごまかし、事実と異なることを言っても本人がほっとするように対応するのは日常茶飯事に行なわれていることです。

たとえば、施設内で「今から家に帰ります。ここにいでもすることがないし、家のことが心配ですから、すぐに帰ります。」と言って施設から出て行こうとされたらどうしま

すか。「今日は遅くなったから、明日家まで送りますよ。」と言ったり、「二十分だけ待って下さい。今は手が離せないから、三十分後に送りますね。」と言ってお菓子とお茶を出して忘れていただけたらいいなという具合でしょうか。この中には嘘が入っています。嘘を使わずに関心をそらしたり、別の話題に変えてタイミングをずらすよりは、この例にあげたような対応をすることは楽な方法なのです。認知症のケアにあたっては方ならば、日本だけでなく、アメリカでも、世界中の誰でもが同じように感じていることなのです。

④アメリカと日本の文化や風習の違いは大きい!

日本には仏教用語で「嘘も方便」という諺がありますが、バリデーシヨンの発症の地アメリカには嘘を言う文化風習はありません。例をあげて説明します。

問題。 あなたがある勉強会(あるいは講演会など)に出かける予定をし

ていました。上司（あるいは社長など）が同じ日の同じ時間帯に別の勉強会に出席するようにあなたに命令を出してきました。あなたの個人的な意見は、自分の行く予定の勉強会は有益なものだが、上司の命令している勉強会は役に立ちそうもないと思っている。どうしますか。

解答。以下から選んでください。

ア 自分の予定していた勉強会をあらかじめ命令に従う。

イ 仮病を使うか、家族の誰かが病気になったとか嘘をついて自分の行きたい勉強会に出席する。

ウ 上司（あるいは社長）に直接自分の意見を述べる。命令のあった勉強会よりも自分の予定していた勉強会の方が有益であると意見を言っ自分の行きたい勉強会に行く。

あなたなら、どれを選びますか。アかイを選ばれますか。間違ってもウのような行動は避けますね。イにあるような行動をして嘘がばれたとしても「そうまでして行きたかったのか仕方のないやつ」くらいで済み

そうです。しかし、ウの行動をとったならば、ひよっとしたらクビ、左遷、減俸がありますね。

私は二年半の間アメリカの国立衛生研究所で働いていましたが、アメリカでは、このような場合は、間違いないウを選択します。自分の意見を述べることができる人間として認められ昇進する可能性があります。アの選択もありえます。しかし、間違っても絶対にありえないのはイの選択です。嘘がばれでもしたら、クビ、左遷、減俸、さらに社会的な信用は全くなくなります。

「嘘」については、個人としての捉え方、社会としての考え方が日本とアメリカでは全く質の異なったものなのです。

⑤バリデーションではなぜ嘘をついてはいけないとしているのか？

アメリカで認知症のケアにあっている方々や、バリデーションを始めたナオミフェイル氏も、認知症の本人がほっと安心して穏やかな気持ち

ちになれるような嘘をつくことで、認知症に伴う行動障害は減ることをよくわかっているはずですが、それでも嘘をつかないようにしようとしているのは、そのような文化や風習がないからです。もしも、認知症のケアにあたる場合だけは嘘をついてよいとすると、アメリカでは認知症の人だけを特別扱いすることになるからです。

日本ではどうでしょうか。一般の方々が上手に嘘をついて生活している文化風習があるなかで、認知症のケアにおいては嘘をついてはいけないとすると、日本では認知症の人だけ特別扱いすることになるのではないのでしょうか。みなさんは矛盾を感じませんか。

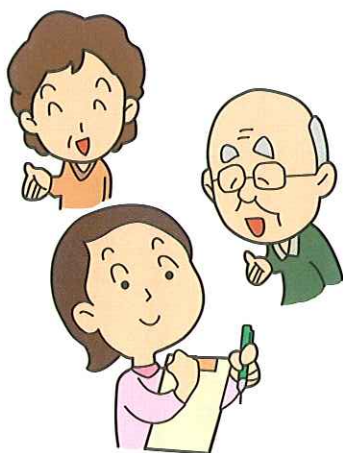
⑥日本には日本人にあった認知症ケアの仕方がある

内服薬の投与量でも人種により差があるというのに、人をケアするという行為では内服薬の投与量以上に大きな差があってもおかしくない

思われます。人はその国の文化風習の中で育ち生活しているのですから当たり前のことです。

バリデーションのすべてを無理に実行するのではなく、日本でも通用する良いところを取り入れ、通用しない点は改変して使うことが必要でしょう。

メディアや著名な先生や学会などが何を言おうが、認知症のケアにあたる現場で毎日汗を流して一生懸命に働いている人たちは、なにより良いケアでなにより良くないケアか、当たり前のように自然と見抜いているのです。





◎2007年3月8日講義

「発熱から見えるもの」

福祉村病院 院長 小橋 修

物事を成し遂げる正しい方法は一つだけではなく、複数あること、何事も一人だけですべてのことをすることはできない。医療に携わる者の心構えとして、目の前の現実をよく見て「なぜ！なぜ！どうして」「それ本当？」とたえず疑問を発し、そして「こうかもしれない、こうすればいいよと解決策を出せるように日々研鑽しましょう。

高齢者の体温表を見ていつもとちよつと違うと思うか、これくらいの発熱はよくあると思うか、翌日になって高熱となつてはじめて、ああこれらの微熱は前触れであつたのかとわか

ることがあるが、あと智慧では患者さんのためにならない。よく観察し、よく考えて予防ができるようになることが望ましい。Aさんはいつもこういうパターンだが、Bさんは違っている。Aさんは違う原因で同じパターンをとることもあるというように、それぞれの人の全体をいつもよく見る習慣をつけることが大切です。21世紀に生き残るには、マニュアル人間であつてはならない。決められた仕事をマニュアルどおりにこなすだけでは十分ではない。生身の人を対象にしているのだから製品の管理のように行かないのは当たり前である。先入観に惑わされることなく、同じように見えても実は違うことがあるので「いつもとちよつと違うのでは」と感じるセンスを磨くためにも、なぜ！なぜ！どうして、それ本当？と日々問題を発見し、解決する力と質問する力を養いましょう。講演で、「体温表に痕跡を残す不顕性誤嚥と顕性誤嚥、便秘と発熱には深い関係がある。高齢者の肺炎の

ほとんどは、口腔内細菌の誤嚥が関係しているのです、口腔ケアとうがいが大切であり、これによって肺炎を8から9割減らすことができる。低栄養で感染防御力が低下したためにおこるさまざまな感染症による発熱、中心静脈高カロリー栄養管理中に必ず起こる発熱にもいくつかのパターンがある。」などについて述べましたが、さわらび誌2月号に詳しく書いています。

介護で大切なことは、声のない声に耳を傾け、患者さんの目線で考え、私の方が正しいのだ、だからといって相手が変わるようにいっても無駄、こちらが変わる事によって問題が解決することが多いことを知り、謙虚な気持ちをもち続けましょう。発熱パターンだけから原因を予測するとは困難なので、普段から患者さんを全身の視野に立ってよく観察し、なぜなぜどうしてとよく考え、「いつもとちよつと違うのでは」と感じるセンスを身につけましょう。

◎2007年3月22日講義 「医療ケアホーム」について

あかね荘 池田裕恵

この4月、愛知県コローニーから地域移行する重症心身障害者のケアホーム、通称「医療ケアホーム」が福祉村にオープンします。

看護師の配置が義務づけられた愛知県独自のケアホームで、正式には「重症心身障害者地域生活推進モデル事業」といいます。居宅生活継続の支援や、施設入所者の地域生活移行の推進のため、看護及び医療を提供し、より安心で安全な生活を支援し、重症心身障害者の福祉の向上を目的とします。

地域移行はノーマライゼーションの理念のもと「地域で暮らす権利」を回復するためにすすめるものです。医療行為が必要なため入院している重症心身障害者の方々の中でも、地域での生活を希望する方はたくさんいらっしゃいます。医療ケアホームへの入所が皆さんの希望の光となるよう努めてゆきます。

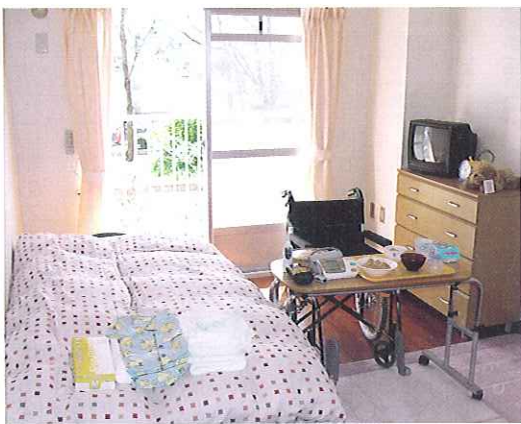
(5ページ記事参照)

愛知県初、
「重症心身障害者向け
医療ケアホーム」が始まります

4ページの下段でも述べています
「医療ケアホーム」が、本年4月に
福祉村の中にオープンします。

この「医療ケアホーム」は、平成
18年に制度化され、地域移行型とし
ては愛知県初の施設です。

さわらび会では、これまで行つて
きた地域移行の実践と地域生活支援
のシステムを活用し、愛知県コロナ
ーにおられる三河出身の方々のふる
さと移行に協力すべく、準備を進め
てきました。



▲ケアホーム室内



▲研修風景

昨年より、こぼと学園の見学と検
討会を重ねる中で徐々に対象者が決
まりました。

一方で住居のバリアフリー化や日
中活動の場の確保等、利用する方が
快適にそして安全に生活できるよう、
こぼと学園にて職員研修も行いまし
た。

ノーマライゼーションの理念は一
部の障害を持つ方達だけに適用され
るものではないはずです。

利用予定で、現在市民病院に入院
しながら入居の日を待っているKさ
んは改修の様子を写した写真をとて
も嬉しそうに見つけていましたし、
主治医も「医療ケアホームの開設は
重度障害の方々に本当に希望を与え
てくれます。期待しています。」と
話してくれました。
(安形)

さわらび会&障害福祉課
福祉懇談会

2月26日、福祉村に豊橋市障害福
祉課石黒拓夫課長と杉山昭夫主査を
お招きし「福祉懇談会」を開催しま
した。この試みの目的は、この豊橋

の地でさわらび会として障害者施策
にどのような協力が出来るのかとい
うことを福祉課より直接意見を聞き、
これからのさわらび会の活動の指針
にして行こうというものです。

この会議の中さわらび会としては、
①グループホームについて、利用
者側も事業者側も現制度の中、非常
に苦しい現状の為、豊橋市として独
自の施策をして頂けないか？

②身体障害者の住む場所として、
福祉ホームの設立のお手伝いをして
ゆきたい。

③高齢の親と障害を持った子供が
一緒に住み続けたいというニーズが
大変に強い。若菜荘のような軽費老
人ホームでそのような居住形態につ

いて理解を頂けないか？

④日中一時支援について、明日香
では重症心身障害児の受け入れも行
っているが、一人の障害児に2名の
職員の配置が必要な時もある。単価
について検討頂けないか？

⑤大規模災害発生時、さわらび会
では防災用品、非常食等の備蓄を行
っている。豊橋市の避難所として正
式に認定して頂けないか？

というような要望を聞いて頂きま
した。どれも今すぐに即答を頂ける
ような要望ではありませんが、熱心
に聞いてくださいました。また、逆
に福祉課側からは「現在、重症心身
障害児・者の短期入所の受け入れ先
が豊橋市では大変少ない。医療・福
祉の充実したさわらび会で協力を頂
けないか？」との要望も頂きました。

この懇談会を通じて、事業者、行
政が相互に話し合う重要性を再認識
しました。さわらび会はこのような
懇談会を定期的に開催し、地域福祉
の充実へ積極的に協力してゆきます。

さわらび会の心と歴史

珠藻荘に勤める河合保美さんは調理員として働くだけでなく、「福祉村を利用されるたくさんの方が、より快適にやすらげる場所を提供したい」と、草刈りや森林整備、イスやベンチの制作など、あらゆる福祉村の整備を率先して行っています。

この度、河合さんは勤続三十年を迎えられ、後輩の皆さんにメッセージを送ってくださいました。

さわらび会勤続三十年を迎えて



調理員 河合保美
珠藻荘

私は、この「さわらび会」に三十年もの永きに渡り、勤めさせて頂きましたこと、深く感謝しております。これも、ひとえに理事長先生をはじめ、「さわらび会」に関わる多くの方々の支えが在ればこそ、無事ここまで勤めることが出来たのだと、重ね重ね感謝しております。誠にありがとうございました。

さて、私の人生、振り返れば半分

以上も「さわらび会」と共に歩んできました。結婚をし、家を建て、三人の子供を授かり、幸せをいっぱい頂きました。ただ残念な事は、共に苦勞をして支えてくれた妻と一緒に名誉ある永年勤続三十年を迎えられなかったことです。でも、きつと空の上から「頑張ったね！」って拍手をしてくれていると思っています。妻にも、「ありがとう！」と言います。「本当に、ありがとう！」

さて、三十年勤続の話の事ですが、学歴優先の社会の中で私、河合保美は中学しか出ておりませんが、どう生きていこうか悩みました。当時、理事長先生が私にこう言いました。

「人は学歴だけが全てではないから、貴方は貴方の持つ特技や能力をさわらび会で発揮したらどうかね？私は、それを職員に期待してるんだ。」と言われ、胸を撫で下ろした記憶が在ります。その時私は、私が出来た事を「さわらび会」で頑張ろうと思いましたが。そして、今日まで無事、勤

める事が出来たのです。

さて、ここに「さわらび会」の将来を担うために入社してきた若者達が居ますので、何故、私みたいな者が「さわらび会」に三十年もの永きに渡り、勤められたのか？皆さんにお話ししたいと思います。私が常々、心掛けて働いていることをお話ししましょう。

一つめは、働くための「生き甲斐」を職場に見付けることです。つまり目標です。目標を見付けることにより、その事が「やり甲斐」となり、毎日の仕事楽しくなって来ます。そして、人生を通して「掛け甲斐」のないものとなり、この先の自分を支えてくれるのです。

二つめは「いたわり」の気持ちを忘れないうことです。それは、患者さんや施設利用者さんに接する機会が多い私達職員にとって、もっとも必要な事だからです。

三つめは、人がしないこと、出来ないことをする。これは、自分の持っている特技や、知識を活かすという

ことです。「あつ、これは誰々さんが知っています。これは誰々さんが出来ます。」って言われるようになることです。

四つめは、積極的に事に当たり、提案や要望等は積極的に出すことです。ただし、自分の名前が書け、言ったことや書いたことに責任が持たなくてはなりません。

五つめは、職場を愛し、職場が何時も綺麗で在るように心掛けることです。福祉村に来て頂く方へのお持て成しとして、訪れた方や現在利用されています方達に「福祉村は素敵だよ。」って思ってもらいたいです。心に残る村で在りたいからです。何故なら自分の大切な職場だからです。皆さんが、これから働く職場だからです。だから、綺麗で在りたい。皆さんもそう心掛けて頂きたい。後に、私が去った後も、胸張って自慢出来る「さわらび会」にして頂きたいと願っております。

六つめは、褒めてもらおうとか、見返りを期待しようとかでなく、極

先輩から後輩へ引継がれる

自然に事を成す、ということ。自分は何をするために、この仕事を選んだのか考えてみて下さい。

七つめは、「はい。」という素直な気持ちと人の話をよく聞こうとする前向きな姿勢。

以上、私が三十年「心掛け」で来た事ですが、私自身、三十年間を振り返り、一つひとつ守られて来られたかは自信は在りません。でも一つでも、此処に居る皆さんの参考にして頂ければ、幸いかと思います。

最後になりましたが、理事長先生の医療への熱い思いと、福祉への力強い情熱と共に、同じ道を私のような者が、恐れながらも「さわらび会の歴史」を一緒に歩めて来られた事を誇りに思っております。本当に、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

第二さわらび荘看護師長の鈴木あきよさんは、福祉村病院で介護職員として長年働き、看護学校に通い、

看護師とられました。看護、介護の立場から長年、認知症の患者さんに接する鈴木さんに認知症の今昔についてお話ししていただきました。

認知症の今昔



第二さわらび荘
看護師長
鈴木あきよ

さわらび会へ入って25年、多くの患者さんが懐かしく思い出されますが、昔と今では認知症の症状が随分変わってきたので、ご報告します。

1) 徘徊

昔、徘徊される人は、誰のものであってもかまわずに名札、トイレットペーパー、オムツなどを手当たり次第に持って歩かれました。物のない時代に必要な物を必死で手に入れる生活をされてきたためでしょう。今は、何も持たずにふらふら歩かれています。

人が多いようです。何でも手に入る時代になったからでしょうか。

2) 異食

昔の患者さんは、職員の顔さえ見れば「食事はまだか」と尋ねられましたし、残飯の入ったバケツに手を入れ、すくって食べたり、ボタンでもそば殻でも、はたまた大便でも、何でも口に入れ、全く目が離せませんでした。食べる物に不自由しない飽食の時代になったためか、最近異食はめっきり減ってきました。

3) 帰宅欲求

一家の主、主婦として家族の先頭に立って守ってきた家庭も時代の移り変わりと共に様変わりしたためか、今では施設や病院が安住の地とされたようで「家に帰る」とおっしゃる方がめっきり少なくなりました。

4) 衣服やトイレが洋式に

昔、男性は着物にフンドシ、女性は着物に腰巻きが定番でしたし、女性は着こなしがお上手で、寝巻でもきちんと衿を抜き、紐を何本も巻き、決して裾を乱すことはありませんでした。

今は、寝たきりの人以外は、殆どパジャマになってしまいました。

昔は、洋式トイレは水桶と思われ、顔を洗ったりされましたし、また、便座の上に乗ったり、蓋を抱きかかえて座られましたが、今は洋式トイレを希望される方が増えてきました。

5) 朝寝坊に

昔は午前三時頃からぞろぞろ起き出されて、雨戸を開けるかのように、すべての部屋の戸を開けて歩く人や、朝御飯の支度と言ひ、水道の蛇口を全開にし、水を出し放しにされる人など、本当に早起きの働きの者が多かったのですが、今は、朝早い人は殆どいません。ご飯を焚くのも、洗濯をするのも、全自動になったため、ゆっくりと朝寝坊をされる癖が身についていらつしやるようです。

6) お世話する職員も

職員も、世代が違えば考え方も変わってきますが、お互いによく話し合い、お年寄りの幸せのために協力してゆきたいものです。

障害のある子を持つ ご家族の思い

～不安のない未来をめざして～

さわらび会では、みんなの力でみんなの幸せを守るため様々な活動を行ってきました。その中で、影となり支えてくださったのは、ご家族という大きな存在です。今回の特集では、そのご家族の思いや家族会の現状と課題を取り上げたいと思います。

知的障害者授産施設

明日香では

明日香は、1983年4月に豊橋市の強い要望にこたえて、社会福祉法人さわらび会の五番目の施設として誕生しました。開設当初から、明日香家族会には、施設と一体となり講習会や交流会など、様々な行事へ積極的に協力していただいています。現在の明日香家族会においても、その頃の活動と精神が今でも引き継がれ、自主製作品作成の手伝いや家族会主催によるバーベキュー大会の開催など、行事にもご協力いただいています。また、毎月行われる家族会役員会や年二回行われる家族会総会、

そして、昨年からは家族同士で悩みを分かち合い交流できるよう「家族懇親会」を開くなど、家族同士の交流に力を入れるようになりました。しかし、そんな家族会にも課題はあります。それは、ご家族の高齢化などの問題です。現在、明日香利用者のご家族の約半数は両親または片

親を亡くしていたり、ご家族の方が高齢で病気がちであるなどの問題を抱えています。そのため、残念なことですが、家族会総会や懇親会の出席は半数ほどに減ってきています。そのような中、明日香利用者のご家族が、将来の不安について思いを語ってくださいました。

今年、娘は四十三歳になります。

明日香開設当初の福祉村は木々に囲まれ、病院前の広場では青々とした芝生がとてもきれいでした。夏には芝生の上で盆踊りや花火を打ち上げるなど、とても楽しかったことを思い出します。

しかし、世の中の高齢者が増えるとともに、私たち夫婦も高齢になってきました。いつまで娘を支えていけるか不安を感じています。今自分出来ることは、自分が介護を必要としないように毎日の食事に気を付けることと、月に一回、休日ヘルパーさんをお願いし、娘の外出支援

をしてもらうことです。それは、少しでも自分の余力を残そうとの思いからです。

しかし、いつかはこうした生活が続けられなくなります。その時は、普通の老人施設ではなく、特に知的障害の人たちが差別されることのない老人施設が出来ることを願っています。この事は、明日香の家族会でも話し合いましたが、目前に迫っている幾つかの親子には深刻な問題となっています。

将来、楽しく暮らしている娘の姿を見届けて自分の生涯を終えられることを願って止みません。

障害者入所施設では… 珠藻荘・あかね荘からの報告

身体障害者療護施設珠藻荘は、福祉村で最初の施設として1980年に開所しました。開所当時から施設を利用されている方もみえます。年々上がってきた施設入所者の平均年齢も50歳を超え、やはりご両親をはじめご家族の高齢化が目立つようになってきました。

身体に重度の障害をもたれる方の介護には、様々な場面で専門的な器具や知識が必要になりますが、介護負担を補うための住宅改修やリフターなどの大掛かりな補助具など、金銭的負担が大きく購入できない方も多くみえるのが実情です。そのため、珠藻荘でも帰省が難しい方が増えつつあります。

知的障害者更生施設あかね荘は、1982年4月の開所当時から家族会が発足しました。生活用品の寄附にはじまり、草刈りや行事への参加などを積極的に行って頂いています。

家族の力を結集し、入居者の生活の場であるあかね荘を充実させたい、という願いがひしひしと伝わってきます。

しかしながら、「最近では、子どもを見る体力がなくなってしまった。」と、ご家族の高齢化により帰宅が減ってしまった方が増えつつあります。年々入所者を取り巻く環境は変化しますが、ご家族の入居者に対する思いは今でも変わりません。ご兄弟の方でも、家族会ボランティアとして芋掘りに参加して頂いていますし、この思いは親から兄弟へと受け継がれつつあると思います。



▲珠藻荘での家族会の様子。活発に意見の交換がされます。

若い世代の想い 将来のために

田原市障害者生活支援センターは、障害のある子を持つ親と、まだ子ども小さい若い親とで、「10年後の未来を考える」という座談会を開催しました。また、珠藻荘の田中副施設長は、豊橋養護学校に通う子供を持つ、父母の集まり「しゃべりん倶楽部」の定期的に行われる会議に、利用者や職員両方の視点からアドバイザーとして参加しています。田中さんは、「皆さん本当によく制度のことを勉強されているというも感心させられます。サービスを使う当事者でもあり、納税者でもあるからだと思います。」より良いサービス“より良い情報”は私たち職員よりも知っておられます。これは裏返せばそれぞれの親御さん達が感じている“親亡き後の不安”から来ることだと思います。」と語っています。

さわらび会でもできること

ご家族の高齢化時代を迎え、施設

と家族の関係は変わりつつあります。

あかね荘入所者Tさんのお母さんは、若菜荘に入所されており、普段から気軽にあかね荘へお越し頂いたり、Tさんが遊びに行ったりしています。在宅だと食事や入浴の準備をせねばならず負担が大きいが、近くにいると安心出来るということです。

これは高齢者施設と障害者施設の両方を持つさわらび会の特徴を生かした支援の一つです。またご家族自身の成年後見制度の利用や、介護保険制度の活用など、本人を中心として家族の社会資源の利用を一緒に相談していくケースも出てきました。

このように、どの世代も、家族の方は自分が高齢化していく不安と共に、子供の将来にも大きな不安を抱いています。安心して将来を迎えることのできるサービスの提供が求められています。さわらび会は、これからも本人のみならず、ご家族の支えとなるようなサービスを提供してゆきます。

(編集スタッフ)

GP2 公式テスト フォトレポート

みんなの喜ぶ顔が見たい
そのために左近は妥協しない

BCN Competition Team

山本左近

Sakon Yamamoto



Photo/IMAHARA Taro (TIPP)

2007年モナコGP・ 山本左近選手GP2 応援ツアーのご案内

GP2レースに今期より初参戦する日本のホープ・山本左近選手。その応援モナコツアーの企画が発表されました。モナコ公国の市街地を舞台に開催されることで有名な、レースファンなら一度は行ってみたいモナコGP。今回の企画には、クルーザーからの観戦、ドライバーやパドックの雰囲気に触れることのできるパドックエリアパス。そして何とんでも山本左近選手に来船していただいたのクルーザー一船上ランチパーティーなど楽しい企画が盛りだくさん。

是非この機会にレースの醍醐味を肌で感じてみてはいかがでしょうか。

出発・日程

中部国際空港発着 7日間

5月23日(水) 中部国際空港発 - 10:30
ニース着 - 18:50

5月24日(木) } GP2レース及びF1レース応援・観戦
5月27日(日) } (25日には山本左近選手船上パーティーへ来場予定)

5月29日(火) 中部国際空港着 - 08:55

資料請求・お問い合わせは

GP2ツアーデスク } TEL03-5547-5056 FAX03-5547-5064
http://www.racingworks.net/index.html



GP2のレースカーは、すべてルノーエンジンとブリヂストンタイヤのワンメーカー。

勝利の方程式を追求し 進化の途中!!

GP2レースの開幕を直前に控え、スペイン、フランスと続いた合同テスト。ライバルチームは昨年からのテストを始め、マシンを熟成させている。左近選手の所属するBCNコンペティションチームは、初めてのテスト。左近選手自身もデイスアドバンテージを感じながらも、今やらなければいけないことを正確に見極め、テストに集中しマシンの進化をめざしている。その瞳は、遠くを見据え目先のことには全く囚われてはいない。プロフェシヨナルな仕事にチームの期待も高い。



施設長直筆の書で 季節感を



ジユゲム施設長・金井芳之

前回の解説でも述べたように、このところの気象異常で、平安朝の詩歌にみられるような季節も中々使い難い時代になってしまった。とは云え、春は春、東雲（しののめ）も速まり、小生も毎週明けに東京から豊橋へと向う脚どりもやや軽快になった。東京駅へ向う中央線の車内から観える外堀沿いの美しい桜花の光景が今年もまた楽しみみである。

東雲の
いづか速み
櫻待、
是

さわらび日記

(H19・2・16～3・15)

■福祉村病院・ジユゲム

- 2月16日 病院幹部会
- 豊橋市社会福祉協議会主催認知症座談会にて伊刈弘之副院長が助言者として助言を行う
- 17日 市医師会主催「生活習慣病健診講習会」(豊橋市市民病院)に理事長出席
- 23日 愛知県ホームヘルパー連絡協議会主催研修会にて伊刈弘之副院長が「認知症の理解とホームヘルパーのサービスのあり方」について講演
- 25日 シー・ディー・エー主催研究発表会(シーパレス)に理事長出席
- 26日 市障害福祉課長による「豊橋市の障害福祉計画について」(ヒッピ2階)に理事長・各施設長出席
- 3月1日 早稲田集会議(理事長出席)
- 愛知県認知症対応型サービス事業者研修会にて伊刈弘之副院長が「認知症についての医学的な理解と対応の仕方」について講演
- 6日 給食部との懇談会(ジユゲム7階)に理事長出席
- 8日 認知症介護研修センター主催シンポジウムにて伊刈弘之副院長が「80年代からのアクティビティプログラムへの取り組みと認知症の方への良い対応の仕方と接し方」について講演
- 8日 さわらび大学「発熱から見えるもの。誤嚥にご縁あり」小橋修福祉村病院院長
- 12日 施設長会議(理事長出席)
- 13日 シユゲム幹部会
- 14日 東三河神経病理セミナー(豊橋市民病院)に理事長出席
- 14日 豊橋みなとライオンズクラブ例会に理事長出席
- 15日 豊橋中央高校吹奏楽部による演奏会(ジユゲム)
- AED取扱説明会

■さわらび荘

- 2月16日 介護サービス情報公表に伴う訪問調査
- 19日 全国老協東海北陸ブロックカントリーミーティング(施設長・藤原・名古屋) 20日
- 21日 主任ケアマネ研修(浅見 名古屋) 高齢者担当会議(藤原・白井 第二さわらび荘)
- 地域包括支援センター打ち合せ(松下・浅見 つつじが丘地域福祉センター)

■第二さわらび荘・カサデローザ

- 2月19日 東海北陸ブロックカントリーミーティング(山本、相澤施設長・松原 名古屋)
- 20日 社会福祉関係職員等研修事業運営委員会(山本施設長 名古屋)
- 20日 愛介連理事會(山本施設長 名古屋)
- 20日 東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会・運営委員会・正副会長合同会議(山本施設長 岐阜)
- 23日 ヘルパー養成研修(西崎)
- 23日 老人ホーム三河部(全体)施設長会・役員会(山本、相澤施設長 カリオニビル)
- 27日 高齢者虐待防止社会福祉施設等役員研修会(山本施設長 あいトピア)
- 27日 日本介護支援協会ケアマネジメントセミナー(長坂敏 東京)
- 27日 応急手当講習会
- 27日 愛知県老人福祉施設大会(山本施設長・松原・孤田・松下・熊谷 名古屋)
- 27日 愛知県身体拘束ゼロ作戦推進会議(山本施設長 名古屋)
- 28日 全老協第14回正副会長・委員長会議



福祉村病院 副院長
伊莉弘之

第十四番常楽寺から第十五番薬王山（やくおうざん）国分寺（こくぶんじ）まで車で五分。国分寺は聖武天皇の詔勅により国家鎮護の目的で建てられ、当時の国主は政治を行う前に国分寺を参詣した。国分寺から第十六番光耀山（こうようざん）観音寺（かんのんじ）まで車で十五分。観音寺には赤ん坊の夜泣きを止めてくれる「夜泣き地蔵」がある。

観音寺から第十七番瑠璃山（るりざん）井戸寺（いどじ）まで車で二十分。鮮やかな朱塗りの堂々たる仁王門。

弘法大師がこの地の住民



から水の悪さを訴えられ、錫杖で地をついたところ、清水が湧き出てきたので寺号を井戸寺とした。このような弘法大師にまつわる井戸や清水の伝説は各地にあるが、この井戸寺はこの伝説がそのまま寺号になっている。

清水の湧き出た井戸は「面影の井戸」と呼ばれ本堂脇の建物の中にある。井戸をのぞいて顔が映ればその人の寿命が三年延びると言われている。私たちは順に井戸に顔を映した。「昨日も寿命が三年延びたでしょ。二日で六年も寿命が延びたよ。よかったね。」と小学三年の娘。合掌。

ジュゲムエレベーター内にて

ほっと一息。
春を感じる利用者の作品



「ひなまつり」

作・後藤夏江
(ジュゲム通所リハビリ利用者)

卵の中身を出すのに苦労しました。
髪は毛糸、着物は千代紙です。



さわらび大学講座案内 ☆参加費無料で、どなたでも受講できます

- 4月12日(木)「認知症の介護」
福祉村病院 副院長 伊莉弘之
- 4月26日(木)「障害者自立支援法移行について」
福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね 施設長 石黒 稔
- 5月10日(木)「大腿骨骨折の予防」
福祉村病院 医師 古谷 愛晴
- 5月24日(木)「利用者への共感的理解と傾聴」
軽費老人ホーム若菜荘 施設長 武田 和敏

※さわらび大学の開催は、第2・4木曜日の開催です。時間は午後3時～4時。会場は、福祉村病院会議室です。尚、都合により日程及び講座が変更となることもございますのでご了承ください。

◎お問い合わせ・受講申し込み

軽費老人ホーム若菜荘

☎ (0532)48-1138

FAX (0532)48-2365

- 一、市内東新町六三 杉山松枝氏 壹萬円
- 一、市内牧野町九〇 小松ウメ氏 伍千円
- 一、碧南市大浜上町一―三六 碧南マツダ(株) 田中梅夫氏 貳萬円
- 一、市内入舟町二一 (株)三恵薬品 貳萬円
- 一、名古屋南区西又兵衛町三丁目二―三三 ハヤシリハビリ(株) 壹萬円
- 一、市内清水町字富士見八〇四―一 (株)松谷建設 壹萬円
- 一、市内小池町三六―一 共和印刷(株) 伍千円
- 一、市内高塚町神田六八 田京敏明氏 伍千円
- 一、市内中岩田三丁目一―三 白井良治氏 壹千円
- 一、豊川市正岡町胡麻田七三二 (株)マルスホームデザイン 伍千円
- 一、市内弥生町西豊和九―九 林 昭氏 壹萬円
- 一、市内萱町三〇 (株)中野新松商店 壹萬円
- 一、市内瓜郷町前川五〇―一 鈴木弘生氏 壹萬円
- 一、市内間屋町一五―五 (株)スズケン 壹萬円
- 一、市内東田町一五四

さわらび会後援会
寄附ご芳名
 ・H19・1・15～2・14

- (資)竹田商店 壹萬円
 - 一、市内東新町三二四 (株)日医工新和 壹萬円
 - 一、市内飯村北二丁目二六―一六 (有)滝川器械店 壹萬円
 - 一、市内東脇三丁目一―一七 森田由利子氏 壹萬円
 - 一、市内白河町一〇〇 中部ガス(株) 壹萬円
 - 一、市内神野埠頭町二 神野臨海(株) 壹萬円
 - 一、市内野依町山中一九―一四 福祉村病院職員有志 四千元
 - 一、匿名希望氏 壹萬円
 - 一、匿名希望氏 壹萬円
 - 一、匿名希望氏 壹萬円
- 計 貳拾貳萬伍千円
- その他匿名希望多数の方よりご寄附頂きました。
- 現在までにご寄附いただきました金額は
八億零千參百七拾壹萬 八百六拾六円

インド福祉村協会
寄附ご芳名
 ・H19・1・15～2・14

- 一、名古屋市東区筒井二―四―三四 小林敏造氏 壹萬円
 - 一、石川県小松市上本折町二六五 竹田外喜男氏 壹千円
 - 一、名古屋市名東区亀の井一―七―一 村田譲治氏 壹千円
 - 一、岐阜市加納栄通五―四〇 伴正敏氏 伍千円
 - 一、名古屋市千種区徳川山町六―二―二六 廣田耕作氏 壹萬円
 - 一、名古屋市中区新栄一―七―一二 東海労働金庫 四千元
 - 一、春日井市堀ノ内町一〇六七 土井まつ子氏 壹拾萬伍千円
 - 一、滋賀県高島市マキノ町小荒路五六五 高木元樹氏 伍千円
 - 一、名古屋市昭和区山花町五〇 医療法人 生寿会 理事長 酒井宏氏 伍萬円
 - 一、大阪市中央区淡路町一―二―一〇 奥村雅堂氏 伍千円
 - 一、西加茂郡三好町三好赤羽根一三一―一 塚崎睦美氏 伍千円
 - 一、名古屋市北区大曾根三―一六―三七 柴田昌雄氏 伍千円
- 計 貳拾壹萬伍千八百貳拾円

募金方法(インド福祉村)

■振込先
 郵便振替・郵便振込
 口座番号
 〇〇八三〇―二一六五〇〇八
 インド福祉村協会

■連絡先 軽費老人ホーム若菜荘
 ☎四八八一―一三八まで

お礼コーナー
 ありがとうございました







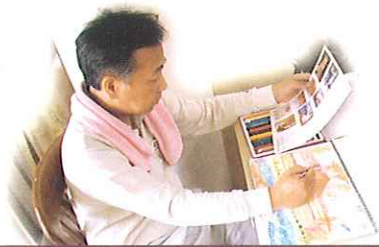
▼青陵中学校生徒会様
 ミニサッカーゴールセット(さわらび荘)

▼清水富士香様
 ハマグリ雛人形※(明日香)

▼武雄山後援会様
 大相撲番付表※(明日香)

▼豊橋中央高校吹奏楽部様
 慰問演奏会(福祉村病院)

※印は豊橋善意銀行を通して



描くことは私の生きがい



● 絵画:ルノワール「シャトゥーの舟遊び」(アレンジ) 中島敏之(珠藻荘)

みんなの力でみんなの幸せ

2007年4月1日発行 早蕨 第408号

(昭和62年2月21日第三種郵便物認可)

充実した医療と福祉

- 特別養護老人ホーム さわらび荘
☎ (0532) 54-3501
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘
- ケアハウス カサ デ ローザ
☎ (0532) 37-1209
- 軽費老人ホーム 若葉荘
☎ (0532) 48-1138
- 身体障害者療護施設 珠藻荘
☎ (0532) 47-1050
- 知的障害者更生施設 あかね荘
☎ (0532) 48-2825
- 福祉村病院
☎ (0532) 46-7511
- 知的障害者授産施設 明日香
☎ (0532) 46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね
☎ (0532) 48-1032
- 福祉コンビニ(東雲町)
☎ (0532) 69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生
☎ (0532) 38-9090
- さわらび会障害者居宅介護事業所 田原
☎ (0531) 24-0722
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム
☎ (0532) 46-7501



社会福祉法人 さわらび会
医療法人

編集責任者: 武田和敏 印刷: 共和印刷(株) 定価: 100円

■表紙: 国道23号線豊橋東バイパスより福祉村を望む

編集後記

国道23号線・豊橋バイパスが04・3・28に開通し、福祉村のある南西まで延びて来た。この道路は、名古屋と豊橋を結ぶ名豊道路の一部として計画され、豊橋港・三河港へのアクセス向上と豊橋市内の渋滞回避の迂回路として期待されている。今回その延長となる豊橋東バイパスが2月26日に一部開通し、福祉村からよく見える南側を通ることになった。音は全くといっていいほど聞こえてこない。しかし景色は一変した。今まで車が走っていないかたところをものすごいスピードで走り抜けていくのである。便利にはなるが、環境は確実に変わった。(武田)

